

ワレンの希望



感謝

わが心は 賛美に満ちる
驚くべき 主の賜物
み力受け 感謝ささげ
尊き主の愛 たたえよ

<聖歌303番より>

主の聖名を賛美致します。

いつも私たち大阪聖三一教会礼拝堂・集会室・牧師館並びに博愛社・地域小規模児童養護施設「つむぎ」建築計画を憶え、お祈りとご支援を賜っておりますことを、心から感謝申し上げます。神さまの導きの下、無事竣工し、礼拝堂の聖別式、集会室・牧師館の祝別式、「つむぎ」の祝別式も行うことができました。重ねて感謝申し上げます。

赤ちゃんから老若男女が集う教会として、温かい雰囲気の中、豊かな礼拝や教会活動がささげられています。さらに6名の「つむぎ」のこどもたちと4名のスタッフが共にいることは、本当に素晴らしい神さまからの恵みです。

地域の皆様の理解と協力も、本当に感謝であります。

今年大阪教区は教区成立100周年を迎えまし

た。教区成立以前から大阪聖三一教会は、教区の中心的な教会として、宣教・伝道の業に励んできました。

大阪聖三一教会は、大阪教区においてだけではなく、日本聖公会としてだけでもなく、広く日本にある教会の中で最も早く生まれた教会の一つです。その意味では、本当に伝統ある教会です。

今回も大きな建築計画で、実現可能であろうかという声もありました。

しかし、既に天に召された信仰の先人たちが残してくださった信仰の遺産と、現在のメンバーの力が協働して醸し出す有形無形の底力を感じさせながら、今歩んでいます。もちろんその源は神さまの聖霊の働きです。私は、大阪教区を支える教会として、特に大阪南地区の母教会的な働きを大阪聖三一教会に期待しています。

まだまだ建築募金は続きます。皆様の末永いお祈りとご支援を、今後ともよろしくお願い致します。

大阪聖三一教会の働き、「つむぎ」の働きを通して、神さまの栄光が現われますように、祈念しつつ感謝の言葉とさせていただきます。

主教 アンデレ 磯 晴久

教会建物が完成

大阪聖三一教会 信徒奉事者 寒河江研司

2022年9月、新礼拝堂建物が完成しました。

大規模耐震補強を施すか、全面取り壊して新築するか、大きな問題に直面したのが7年前でした。それから今までの間、様々の意見が寄せられ、計画が停滞した時もありましたが、諦めずに何度も話し合いを重ねて計画を前に進めて、新しい建物が完成するに至ったことは感謝です。

新しい建物は、礼拝堂と会館ホール、牧師館が一体の建物で、永く求めてきたバリアフリーで礼拝堂に入れる造りになっています。

入口から玄関ホールを通して幅広い廊下を挟む形で礼拝堂と会館ホールが配置されています。礼拝堂は以前より少し小さくて60人ほどを収容できるスペースになりましたが、廊下と礼拝堂を間仕切る引き戸をすべて開けると廊下も礼拝スペースとなります。さらに、廊下と会館ホールを間仕切る引き戸を開けると、礼拝堂、廊下、会館ホールが一つの大礼拝堂となります。これから、教会が発展していくことを考えて、スペースも発展に応じることができるように造られています。



新しい聖堂

玄関ホールにはラウンジと呼んでいるスペースがあります。そこは、会議などにも使用できますが、そのスペースが地域の人たちと教会との交わりの場となり、地域における宣教の場

になることを願っています。

また、同じ敷地内に、博愛社の児童養護施設の子供たちが生活する住居を建設しました。ここで6人の男の子たちが生活し、地域の学校へ通っています。

これから、私たちの教会は、どう生き残っていくか。そのことを考えると教会の再編成(合併)ということになってしまうのですが、その前に、もう一度自分たちが強くなって発展していける方法があるはずだとの思いで、より密接に地域と繋がっていける建物、事業を計画しました。

多くの方に支えられ、支援、お祈りをいただき将来へ繋がる器(建物)を与えられました。ここからが、スタートです。

これからも、私たちの働きのためにお祈りください。

建築献金のお願い

大阪聖三一教会では、引き続き建築献金を募金しています。

皆さまのご支援に感謝いたします。

あと1,600万円！

どうぞよろしくお願いいたします。

教会・地域小規模施設建築費 募金中

献金目標 4,600万円

目標額まであと
1,600万円

2023 年 7 月 30 日発行

私はぶどうの木、あなたがたは
その枝である。 ヨハネ 15:5

社会福祉法人博愛社 前理事長 長野 泰信

大阪聖三一教会礼拝堂・地域小規模施設の竣工開設おめでとうございます。

私たち博愛社が、聖三一教会の皆様とこの大きな喜びを共にすることが出来ます恵みに感謝します。

2020 年夏 齊藤司祭から、大阪聖三一教会の全面建替え計画を推進中であることが告げられ、博愛社が淀川区以外で『小規模児童養護施設』を運営することが可能なら大阪聖三一教会の敷地の一角に別棟住宅を建てるので、いかがだろうかとの申し出を受け、思ってもいなかったことで正直驚きました。

その後礼拝堂建築を決意された経緯と信徒の皆さまの篤い心に触れ、大きな力を感じると共に、新教会がめざすビジョン『誰もが集える教会をめざして』、『社会に視点を向けて』が私たちの心に響きました。

今、博愛社地域小規模施設『つむぎ』は6人の子どもたちが4人の職員と共に教会の敷地の中で暮らしています。

教会のみなさまの優しい見守りの中、こどもが自然なかたちで礼拝に出席し、また地域連合会の行事にも参加させて頂き、ようやく新しい地での暮らしにも慣れてきました。近所の友達との交流も深まり、つむぎへ遊びに来るなど今までの施設生活では経験した事のない生活が始まっております。

神様がこの子どもたちに力を与えて下さり大きな実を結びつつある現況を感じます。私たちは感謝の気持ちでいっぱいです。

建築懇談会の折に高齢のご婦人が『神様の栄光のためもうひと踏ん張りします』の言葉が忘れられません。大阪聖三一教会が地域の方々の集まり場所となり、今後、多くの博愛社の子どもたちがその枝として社会の立派な一員に育ってくれることを祈ります。

全国の皆さまから貴重なご支援を戴きありがとうございました。

大阪聖三一教会、
新しい礼拝堂にて

大阪聖三一教会 信徒奉事者 アブラハム 大西 温

2022 年 7 月末に、大阪聖三一教会の礼拝堂・集会室・牧師館および地域小規模児童養護施設『つむぎ』の建築が皆様のご協力のおかげで無事終了しました。同年 9 月 19 日（月・祝）に大阪聖三一教会の礼拝堂聖別式および集会室・牧師館祝別式が、それに先立ち小規模施設「つむぎ」の祝福が 8 月 8 日（月）に、11 月 3 日（木・祝）には『感謝礼拝』が行われ、多くの教会・諸施設からご列席いただきました。

新しい聖堂は、以前よりこじんまりしていましたが、バリアフリーで木の温かみがある作りになっています。壁や柱に使われている木材の一部の塗装は信徒自らが行いました。ぜひ、多くの方にこの新しい聖堂に訪れていただき、共に祈る機会を持てたらと願っております。

さて、コロナ禍による資材の高騰もあり、当初の予算を大きく上回る 1 億 8,600 万円という途方もない総工費を前に、本教会でも、本当に実現可能なのかという強い不安に常に覆われておりました。しかし祈りの中で、また少しでも協力して下さる方を増やす取り組みを行った結果、多くの募金が集まりました。大阪聖三一教会のことを直接知らないながら、強い後押しをして下さる兄弟姉妹が全国にいるということが実感でき、深い感謝を覚えました。

本教会の基金約 1,500 万円と、この度の献金約 5,600 万円、計約 7,100 万円に加え、全国の信徒・教役者からの建築献金は、個人によるものが約 500 件、教会・施設・団体などから約 200 件あり、金額としては約 3,000 万円を拝受しました（目標は 4,600 万円でした）。また小規模施設設立を念頭に 2021 年度の大斎克己献金 1,000 万円をお献げ戴きました。その他、日本聖公会管区、大阪教区、芦屋聖マルコ教会、大阪聖パウロ教会、川口基督教会、その他内外有志の方からも含め合計約 9,000 万円の融資をしていただきました。お陰様で業者への支払いを完了することができました。心より感謝申し上げます。

げます。

建物は無事に完成しましたが、融資の返済のためにまだ約9,000万円の費用が必要です(15-20年を目標)。この内、小規模施設からの家賃収入を中心に、信徒の献金を加え、約7,500万円までのめどは立っていますが、それ以上は到底本教会だけで返済することはできません。あと約1,600万円を目標に、今後も皆様に献金のお願いをし続けることとなりますが、どうか温かいご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、建築のため礼拝堂が使用できない間、私たち大阪聖三一教会のメンバーを常に温かく迎えてくださった大阪聖アンデレ教会の皆様に深く感謝を申し上げます。

神様のお導き、
皆様のお祈りとお支えに感謝！

囑託司祭 ペテロ 齊藤 壹

大阪聖三一教会の礼拝堂・会館・牧師館の建替え、そして社会福祉法人「博愛社」とのコラボ企画“地域小規模児童養護施設「つむぎ」”の新設工事が昨年7月末に完了しました。

「竣工・聖別式」はあいにく台風と重なり、限られた人数での開催となりました。そのため、改めて「感謝礼拝」を11月に開催しました。新しい礼拝堂で祝う初めてのクリスマスは大きな喜びでした。「つむぎ」の子どもたちと職員も新しい生活に慣れてきたようです。

竣工のご報告とお礼をもっと早くにお伝えしなければならないところ、大変遅くなりまし

たことを、心よりお詫び申し上げます。

私たちの教会も、ご多分に洩れず、高齢化が進みつつありますが、有り難いことに子育て世代も与えられており、子どもの声が響く教会でもあります。そうした中で、バリアフリーの教会に建て替えようという計画が現実的になり、建築費用の見積を取りましたところ、想像もなかった額に驚きました。しかし、ご高齢の方々から予想を越える献金や融資が提示され、それに触発されて若い世代の信徒も前向きに考え始めたのです。

それと同時に、管区と教区が応援してくださり、融資金をお考えくださり、さらに大斎克己献金で地域小規模施設建設にご協力くださることになり、大阪教区はもちろん、全国の教会・信徒の皆様・諸施設・諸学校・更には教会を越えての御知友方から、感謝しきれないほどの多額のご献金とご融資の協力を賜り、完成を見ることができました。

コロナ禍の資材高騰により、礼拝堂の天井板、腰板、ウッドデッキ、扉等の塗装は、信徒が担当しました。複数の有志宅で預かっていた家具・物品の引っ越しも自分たちの手で行いました。この建て替えを通して、老若男女が労わり合い、力を出し合って完成に漕ぎ付けた一体感と手作り感は、何ものにも代え難いお恵みを頂いたと感じ、喜びをもって歩んでまいりたいと思っています。これから、長い年月をかけて管区・教区・個人の方々への融資返済が始まります。私たちは献金を続けてまいりますが、どうか皆様にも、折に触れてのお祈りとご献金をお願い申し上げます。

お詫びとお願い

「ワレンの希望」第2号では、大阪聖三一教会 建築献金をいただいた皆様のご芳名を掲載させていただきます。ご芳名の掲載が不可の場合は、2023年9月末日までに、Eメールまたは郵便にて、大阪聖三一教会にご連絡ください。お返事がなかった方は、第2号に感謝の意を込めて、お振込時に記載されたご芳名を掲載いたします。お手数をおかけしますが、どうぞよろしくお願いします。

本来、この号にて掲載すべきところですが、不行き届きをお詫び申し上げます。

連絡先：大阪聖三一教会 Eメール sanichi@maia.eonet.ne.jp

住 所 〒546-0033 大阪市東住吉区南田辺 5-5-8

(大阪聖三一教会)